



序

也
も
の
身
の
三
代
集
れ
絶
え
証
本
と
し
て
も
な
れ
ぬ
詞
を
こ
の
條
を
も
と
し
て
も
亦
時
お
と
り
て
の
美
葉
を
あ
ら
わ
せ
し
ま
し
た
と
も
そ
の
先
に
お
も
て
の
恩
社
の
ま
ま
に
あ
ら
わ
せ
し
ま
し
た
と
も
成
わ
り
ま
し
た
と
も
落
葉
を
い
は
し
し
た
と
も
亦
た
つ
過
さ
し
た
と
も
あ
ら
わ
せ
し
ま
し
た
と
も
亦
た
つ
過
さ
し
た
と
も



草木の生るる所一に其性情を以て
 無何の間に生るる人よきて古詩中
 亦其趣一何の詞あれば其よ一何一
 をいふに四季を雜の題をあがて
 其れくもれに何の詞一亦其趣一
 たるに其後く乃いふ其題の奇は次
 なる一全部八冊歌林雜木抄なる

於天象地儀生類植物虫魚食服器
 材人多くの追加をもて補りんと凡
 制本良工多し其の事一何の事とれ
 一ふ彼童蒙の事か一其の詩一
 一よふ中にもまじりたる枝のわら
 びく一即て芥子園画傳の毛を吹
 疵をもとむる一其の事一

ぢ〜ん美〜印〜香尔分別〜
取於勢心〜紙

行〜ん〜し〜

元禄九丙子曆初冬吉辰

無田軒長伯

凡例

- 一 和歌乃詞雖無涯際たよ詠なれそ有入口りのふ及
託一少ある事樂なれが我定
- 一 毎詞和歌と引用はゆい和歌と不定詞不定取用は
次又詞はゆいとて小半は何のゆいもあら和歌歌歌の
中又出せり又はよゆりて重出するもあり
- 一 次又詞はゆいとて和歌歌のふた半なれて不定詞
一 歌の和歌はゆいとて二つ又及六七もあれと省略し
て只一とて引部歌の叙多なれが

一 歌の奇乃中とくハ海立去波辺立去野霞野和霞
なとある歌はとくハ其一とあると暗分公月とれいな
已け例あるはあえ一各效之

一 古来歌あわとくも漢字未考りのハ暫略之

一 注釈乃詞或古来乃況諸抄よあるりの或ハ多年ハ
不乃起かな

一 歌ハ眼字實字虚字等あわて各一様なるハ甚あら
わいあるりの死されとやうハ愚意の及ふはあきされハ
と表の義理とのして雅兒の蒙とあせんとく

一 歌の注乃中ハ漢字のんとかくやうなることおれあり

これハ歌の惣心とのあきとくそは依りてそのの長たより

ことハ 花散書深 注よ 花のははははあうれ又ハ人と

とひとれなうておれらもありに花友おれのおまあり

ぬきし 漢字 花友て去るれは花の香のたのきのきとくハ次

又梅香松多 注よ 松の物よまされぬハ白ひの多くおほゆる也

漢字とくハぬけうかう白くおはゆるの使うれハ

一 結歌二字ハ字の中一字二字と注して依り注せらるるもあ
其文字のハ眼字と注して公明なるハ略之也

一 注の中歌の文字と巻く注せとて何と流されおけと
 ころに其大概とされてり也
 一 幾江ももゆる歌ハ二江もきりて餘ハ略之とてハ
 采后水心古々跡徑野外海と等之歌也
 一 集付本書よハ心の中よあるも花乃初あれハ表の江
 よりて久けて心の中よとす一その中花の初可取
 用者なれハこれかての例也

哥林雜木抄目錄

春上

春	結歌十五	暮春	結歌九六	年内之春	結歌一
元日	結歌一	初春	并早春 結歌九	春冰	結歌十
子日	結歌十一	霞	結歌七十一	鶯	結歌八十二
あな菜	結歌九	残雪	結歌九六	春雪	結歌十一
餘寒	結歌十五	梅	結歌百九	柳	結歌六十五

歌林雜木抄 春上

○春

るめる春

集 世乃有る乃春そとといふ心

ほそめてるある春小いころり雷もあつて鶯乃空

後柏原院

春のひより

光 蔵光の心あれり光明の心ふらあつたこれ

集 と又月日乃まゝをせりよの光明とくわり

けの優わろよ乃まれ雲のいれ初てなる春はあはれけし

道冬院

よの春あれや

古今 世乃一統の春そといふ

いれ初てはより後のあつてよの春あれやとほむなる

つとむ

あつては春

淡平 ちハ張物をいれ枕といふいづれり

あつては春あつてりもたまをあつては春あつては春

大政家

梓弓とて春

古今 これちちとては春あつては春

梓弓とて春あつては春あつては春あつては春あつては春

よの春あ

衣もろろせ

是も衣もろろせ

淡後拾 棹娘の衣もろをせねきて去の袖もあは雲せぬる 歌か

このちも去

木の月のころと去りゆくは

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去はく

去らぬも

こころ野よする浮雲は流福ともむいとのあは雲せぬる のりん

去の宮人

去宮よけいなる人といふ

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去の諸人

去人なりゆくの人こ

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去のじぶ

去の山路よか入かき雲

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去らぬも去

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

つら刈去

刈松のこころわらうる去風よき刈雲福も少く沈 三光院

和布の去らぬわかれいゆく

つら刈去ふかれ雲も本侍は候る天のりい 改

去を火さ

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去のうら

人の心とむい又去のやされてむい

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去の初入

そのこころ又刈松のこころわらうる

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

時ハ

時言今去るとい

去らぬも去の雲ふれはかき雲もむとあはら つゆい

去らぬも

去らぬも

春のつらさ

夕し〜そよひのふしをきく〜松の木ののこ 寛永

源集 春のつらさ〜松の木ののこ 正徹

春のせま

源集 魚春不用園城固〜川朗泳の詩より〜

源集 花のう〜名をうひむなと松の春の宮と〜 函信

春のあし

源集 春のつらさ〜松の木ののこ 後柏原院

このあし

源集 春のつらさ〜松の木ののこ

日のつら

源集 春のつらさ〜松の木ののこ

孤生の短歌

源集 春のつらさ〜松の木ののこ

春のつら

源集 春のつらさ〜松の木ののこ

春生人意中

- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ
- 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ • 春のつらさ

陽春布徳

毎山有春

天人唯一か人乃心ゆも四時とかならむこれにまき
 春のつらさ〜松の木ののこ 弘備
 布徳と云ふ徳乃世にちまひくもこれにまき
 四方乃ら〜皆春なり〜と有む初春乃ら〜正徹
 松のつらさ〜松の木ののこ 弘備
 松のつらさ〜松の木ののこ 弘備

毎家有春

あけのぼる朝日 春の光を 照らす 家々の 窓に 春の 影を 落とす

家々散春

日 新春のちびり 春の 影を 落とす 家々の 窓に

春山家尋人

日 春山の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行

春風春水一時来

日 自承天の詩の句 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 絶家

池水波静

日 池水の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行

巢會内下相呼

日 巢會の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行

春動物

春植物

春夜樹

松迎春新

春色

春色浮水

春動物 かなつては生れし 雑の鳥 歌うとも 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行
春植物 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行
春夜樹 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行
松迎春新 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行
春色 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行
春色浮水 春の 影を 落とす 家々の 窓に 春の 影を 落とす 西行

○立春

三友の春をく

冬に春をくして春の春をく

三友の春をくして春の春をく 藤原

春をくして

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして

春をくして 仁徳寺宮

春をくして

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

唐土より

歌集

唐土より 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして

春をくして

春をくして 藤原

春をくして

春をくして 藤原

雨中立春

雨のり小春のり
際集 立春のり小春のり外のり小春のり小春のり

歳暮立春

歳暮 立春のり小春のり
終もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

立春水

立春水 立春のり小春のり
いり水も春と定る小春のり小春のり小春のり

立春氷

立春氷 立春のり小春のり
大いり水も春と定る小春のり小春のり

立春閑

立春閑 立春のり小春のり
閑もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

都立春

都立春 立春のり小春のり
都もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

都鄙立春

都鄙立春 立春のり小春のり
都もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

故郷立春

故郷立春 立春のり小春のり
故郷もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

取々立春

取々立春 立春のり小春のり
取々もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

旅宿立春

旅宿立春 立春のり小春のり
旅宿もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

元日立春

元日立春 立春のり小春のり
元日もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

立春天

立春天 立春のり小春のり
立春もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

立春日

立春日 立春のり小春のり
立春もかこ一年のり小春のり小春のり小春のり

立春霞

日 此の年の初春の初入りそらても霞と春の日の 耕々

立春風

日 春のやれものところ小吹くして春の風はくはく春を吹く 作集

立春雪

日 春のふりゆく雪は降雪の空も冬の花の影さくらん 宗雅

湖上立春

夜集 湖の字をかりし湖上とて春ももよみ又かきりとも
日 湖の浦の春風吹くは十の字をかりて春もくつらん 録倉春夜

湖上立春

日 湖の字をかりし湖上とて春ももよみ又かきりとも

春從東来

日 春の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

寒過春来

後拾 春の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

雪中春来

夜集 雪の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

貴賤迎春

日 貴賤迎春の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

春風来海上

夜集 春の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

○年内立春

冬の日の初

夜集 冬の日の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

初の日

一年の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

年の初

一年の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

年の初

一年の初は湖の沖のさけは春もくつらん浦凡 雅雅

年付のあけ

年の内よき年の初め

宿後二馬市

初めゆりあけしれ年の内よき年と云ふもさるる日

新六

冬より春までその初め年と云ふもさるる日

永久

くれぞ年の終りまでさるる日我よりいれ 光俊

夫木

一年よき年と云ふもさるる日我よりいれ 仲実

夫木

春より秋まで年明けの初めと云ふもさるる日 西家

宿後

方遠し天一杯のあけさるる日我よりいれ 西家

宿後

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 西家

歳門立春

宿集

心年門立春と云ふもさるる日我よりいれ 後柏原院

歳中立春

心年門立春と云ふもさるる日我よりいれ

○元日

三乃のりり

年付日の三乃のりり

辰朝

夫木

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 道徳院

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

新六

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

辰集

あけの年の初めと云ふもさるる日我よりいれ 辰集

このよと去年 十 去年のよと去年 赤 け福あつたのよしとそとけけのよし 赤 去年とあつたのよしとそとけ

人のよの改る

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

年あつたころ

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

年のあつた

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

いのよと改る

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

うのよと改る

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

そと改る

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

くまのよと改る

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

元日宴

○初春 壬申春

延文下 去年とあつたのよしとそとけ 延文下 去年とあつたのよしとそとけ

ちよ乃初春

ちよ乃の初春とて

十五百五

ちよ乃の初春をたてしむるのいふはちよ乃の初春とて

ちよ乃の春

ちよ乃の春とてしむるのいふはちよ乃の春とて

新古今

春入はゆむ

妙雪又白波とてしむるのいふは

春入はゆむ

谷凡とてしむるのいふはちよ乃の春とて

春入はゆむ

ちよ乃の初春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

春入はゆむ

ちよ乃の初春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

春入はゆむ

四月三日の初春

春入はゆむ

ちよ乃の初春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

春入はゆむ

ちよ乃の初春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

鏡の音とて

かほの音とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

後成心

あつむの始

あつむの始とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

定歌

あつむの年

あつむの年とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの春

あつむの春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの秋

あつむの秋とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの冬

あつむの冬とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの春

あつむの春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの秋

あつむの秋とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの冬

あつむの冬とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの春

あつむの春とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

あつむの秋

あつむの秋とてしむるのいふはちよ乃の初春とて

初春海

日 かも風とまよふ志のけの海も我ながらまよふまよふ 道冬院

初春松

日 春もりも年をも娘のともいひのこふ春の松の色 雅親

初春梅

日 春もりも年をも娘のともいひのこふ春の松の色 雅親

初春見鶴

初春見鶴 初春見鶴 初春見鶴

初春祝

初春祝 初春祝 初春祝

初春祝道

初春祝道 初春祝道 初春祝道

初春祝君

初春祝君 初春祝君 初春祝君

早春天

早春天 早春天 早春天

早春日

早春日 早春日 早春日

早春雲

早春雲 早春雲 早春雲

早春風

早春風 早春風 早春風

早春霞

早春霞 早春霞 早春霞

早春雨

早春雨 早春雨 早春雨

早春朝

早春朝 早春朝 早春朝

早春餘寒

早春餘寒 早春餘寒 早春餘寒

電中早春

電中早春 電中早春 電中早春

早春山

早春山 早春山 早春山

早春園

早春園 早春園 早春園

早春海

湖早春

早春河

都早春

山家早春

早春鶯

早春柳

早春衣

名は早春

○春氷

こら風よとつる

こら氷よとつる

以集 まよ今まよとつるはあつても春ふはあ教の荒海 後柳系後

赤集 こはあつてつるはあ教の荒海よはつる浦のを 道冬後

土集 まよよちのつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 耕之

以集 雪はあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 妻孝

赤集 小井のつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 清備

以集 依つたつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 実自光長

凡雅 春のよは柳のつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 伏見院

赤集 春のよは衣のつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 正徹

以集 まよよちのつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 後柳系後

謀子系多合 こら風よとつるはあつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

あつても春ふはあ教の荒海よはつる浦のを 宣言

下とくろ

歌 沙のうられかきて下よりとくろ

氷つれなり

歌 せらへ水田乃少下とくろ落ひ末のまそづゆ 飯池
つれなり強西とくろまそとくろ少のとくろふと
つれなりとくろ

ひさきぢぢ

歌 あか川氷つれなりまめのひさきぢぢ 隆社
少乃とくろひさきのぢぢ

善のうらむ

歌 ひさきぢぢ氷とくろ氷のほむとくろまそ 道冬後
うらむひさきのぢぢ

うらむぢぢ

歌 山川乃善のうらむひさきぢぢのうらむ人や物とくろ 大蔵とくろ
うらむひさきのぢぢ

ひらくうら

歌 善風ひさきぢぢ乃少うらむ下ふれとくろぬ水の流書 道冬
うらむひさきのぢぢ
けお水乃知とくろまそとのぢぢ

氷不解

歌 善とくろひさきとくろけさるん

氷解

歌 善乃とくろまそとくろ鳥のうらむ流て氷水 道冬後
うらむひさきのぢぢ

氷始解

歌 少乃とくろも物とくろ乃初ひさきとくろ谷乃氷 道冬後
うらむひさきのぢぢ

氷消

歌 末乃とくろ人れとくろ善乃少ひさきとくろ 正徹
うらむひさきのぢぢ

春到氷解

歌 善のうらむ流とくろ氷とくろ氷に 正徹
うらむひさきのぢぢ

春風解氷

歌 ゆらとくろ氷とくろ氷とくろ氷とくろ氷に 正徹
うらむひさきのぢぢ

雪消氷又釋

歌 善乃とくろ氷乃雪消れ又雪の氷の氷に 正徹
うらむひさきのぢぢ

氷消田地

歌 田の少の氷とくろ地の字をれ 正徹
善の乃とくろまそとくろ社乃氷の氷とくろ 後柏木院
善とくろまそとくろ氷とくろ

孩氷

歌 善とくろまそとくろ氷とくろ

野乃行奇

松のふれうの川祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

為子日松在天子野乃行奇

新と表れ初子

新と表れ初子の川祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

・社乃と定れ子日

社乃と定れ子日 社乃と定れ子日 社乃と定れ子日 社乃と定れ子日

・引うろ

・引うろと迷る・定初川・姫小松 已上友波方

云朝子日

云朝子日 云朝子日 云朝子日

元日子日

元日子日 元日子日

朝子日

朝子日 朝子日 朝子日 朝子日

社頭子日

社頭子日 社頭子日 社頭子日

山居子日

山居子日 山居子日

子日友

子日友 子日友 子日友

子日真

子日真 子日真 子日真

子日催真

子日催真 子日催真 子日催真

取々子日

取々子日 取々子日

子日隠

子日隠 子日隠 子日隠

子日祝言

子日祝言 子日祝言 子日祝言

歌集

松のふれ祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

日

かえてせ乃く乃小松奈美のあをを以初也 定歌

歌集

松のふれ祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

歌集

松のふれ祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

歌集

松のふれ祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

歌集

松のふれ祿のく乃小松奈美のあをを以初也 定歌

白川

子日祝言 子日祝言 子日祝言

○霞

去乃さら衣

去乃さら衣 去乃さら衣 去乃さら衣 去乃さら衣

天乃さら衣

天乃さら衣 天乃さら衣 天乃さら衣 天乃さら衣

霞の神の

霞の神の 霞の神の 霞の神の 霞の神の

霞の衣の

霞の衣の 霞の衣の 霞の衣の 霞の衣の

霞のの

霞のの 霞のの 霞のの 霞のの

霞との

霞との 霞との 霞との 霞との

仍の

仍の 仍の 仍の 仍の

新本

十一

霞ふの
霞との
霞よの
霞乃の
うの
霞乃の
霞乃の

霞ふの 霞との 霞よの 霞乃の 霞乃の 霞乃の 霞乃の

霞乃の

霞乃の 霞乃の 霞乃の 霞乃の

佳

十六

震がくれ

なつひれの雲よ入くと揺る外あつたれよと令小信後

震乃とら

うしろ雲ふらふられぬ玉雲の雲ふゆさ令雅定

震とらぶる

難波のやまものころふ浪のころあどくろ(舟)舟の製

震ふひとら

咽の字にやちるおのふひとくろく夢のりそね

新勅

胡とゆえりこの雲よ流とあふむとくろ川浪後成

震よはる

くろくくとあふはる海人小舟ゆくれちるから社れ於浦

震よやとら

あ乃中よとゆとをいひ

震よする

めはる仲川なるとくろ祿とゆえりあやとくろ浮橋松長明

震あふ

川のくろ乃難波の雲とくろはあどくろあふひを浪分このころ

震のころ

一人よせるといひ

震のころ

ああよとくろのころふかの雲のくろとゆとくろは松系後

震のころ

あひやく雲あつたこのころああのれれ雲風を吹雅定

震よちうふ

あしそ物をまきうとくろく

震せく

やとらんときこの雲乃とくろふあつたあつたあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

松乃雲はちあつたあつたあつたあつたあつたあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

震あを

あしそとくろとくろあつた

新勅

廿六

いこうどき

いこうどきとひらや

源集

やいふ勢乃定もく我知あうの具あれ 後相宗院

霞乃うら

くたうこ小曲のいと海主舟勢の内漕入ある 後志

霞乃志こ

け末とさつこもさうけあ乃下の乃通路 源集

霞乃そこ

浪乃香も我乃底小沈む蓋やの星乃とるれ 源集

山うもとあ

さうこも春乃我そさうけたいつれ勢の湊和ん せと

山うもあふも

さあおのいも二人よさうくとん

霞のた

山さうこさうみよこれ雲我夜もあふもさうとつ 後入宗

山をたつ川

さうはる我乃あつこつ物て朝日うつら小嵐の松原 右大臣

の雲

かうくせさうさあかん

霞乃あこ

善とわとこゆかりとや雲乃つ川あ勢とささ 後九条院

霞乃あこ

細よここつこ

小ねあつこ雲乃細入月と行やこれの海主の呼吸 后徹

霞じ未評

凡雅 夕川の未評のよけ人の着のとうと小善ゆそく 吹波院

霞あつこ

源集 春乃のさう物とや夕川の未評あつこつ川の乃里 道安院

霞吹とく

玉吹 乃の乃雲吹とく前よあつこつ雲乃さひ人 知家

霞とね

川大 乃の乃雲とく 後志

霞乃ひうり

い先も感えがさう

霞のこちど

私丹 善乃つ川雲乃光海のこく雲乐的仍天乃とや 後香村院

霞のこちど

つとつとハ云てこころ

霞とひと

後改 三善評の雲の雲乃こちとて雲乃よ雲乃乃白雪 定家

霞あつこ

源集 浦乃雲とひとよあまの雲乃とるれやん 後香村院

霞あつこ

小五 雲のさうとつとて雲乃とあふもさうとつと 後香村院

月ようつら

雲乃月の光も映とる

よこぎふ

夫木
まじろふ雲乃らさるる白雲ふ月みほみ雲如たり 光の峯寺

よこかき

日
お坂乃雲のともも明やうて雲くさるる松の村立

このへ凌て
柳引

万代
三痛乃心ぬりいれりれうて雲さる松のうれな水 仲云
らの木のいわたるうすやうのうて雲いしあやめ
さうの福のいしあやめいしあやめいしあやめいしあやめ
百十
ううてと雲向うて雲さる木葉志のうて雲とれ引 人丸

うらぎとこ

流集
うらぎのくや雲松乃らうて雲さるうらぎとこ乃雲らけ 雲

霞たぶら

詩奇合
霞さるけり松乃らうて雲さるうらぎとこ乃雲らけ 雲長

霞乃こお

雲乃うらぎとこ

一うとこ

石清水乃合
あよやまの竹乃雲とこり雲れおの平集なり 後了感

雲のとりせ

あね四半右
あけりか沖行舟もけり雲てうとこなる波のう 雲
雲乃らうて雲さるうらぎとこ乃雲らけ 雲
信定

霞吹ひと

日
大連乃雲吹ひと松乃雲ての雲うらぎとこ乃雲らけ 雲
後集女

雲乃霞

夫木
うらぎと雲の雲乃ら雲も又松乃らうて雲さるうらぎとこ乃雲らけ 雲
肯柏

うらみさ

雲集
いけりうらぎと雲乃ら雲も又松乃らうて雲さるうらぎとこ乃雲らけ 雲
あま

おちふ

後集
あま乃ら雲乃ら雲も又松乃らうて雲さるうらぎとこ乃雲らけ 雲
後柏原院

詩集も霞光曙後赦於火といり

老乃霞

成集 夫木長辨 老乃霞乃社かりりわたり善の別乃れさるる 善素
あつ玉乃 年小ていひ 善ていひ どの老乃
そつりけい かな昔こそ 鳥つれ略 雅登

• 老と老る 海畔表
• 老も老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表
• 老と老る 山表

霞知春

歌 老の善と知春物 老よふ川てけふ小善と知ふあは

霞始聳

日 聳いそひさかみくも

霞遠聳

流集 老の善と知春物 老よふ川てけふ小善と知ふあは
海山も柳引下はあられぬいこく老あつる長話せん 二徹

憐霞

流集 愛一あられいん

霞添春光

日 春のさふいにもふもあつるねさすひの川この朝霞も 二徹
春のさふいにもふもあつるねさすひの川この朝霞も 二徹

霞添春色

日 野もも月一縁のさそとれあつる霞やこのり善素 日

朝暮霞

歌 朝暮の霞もこの朝夕小がひく老も梅りそ 政為

曙霞

流集 朝の霞もこの朝夕小がひく老も梅りそ 政為

朝霞

流集 朝の霞もこの朝夕小がひく老も梅りそ 政為

晚霞映日

流集 夕の霞もこの朝夕小がひく老も梅りそ 政為

朝山霞

山晚霞

霞隔山

山路霞

霞添山色

遠山霞

遠山朝霞

霞遠山夜

遠山霞落

夕川くささきとて霞の影をそよよと霞のさか原集

あさめ乃たなよそ霞むむ霞むむ霞の白雪 霞

夕日と次山の霞もくれあめ乃こそあやまの夜半らん 日

くささきも霞のさかみちのさかみちの霞むむ霞 道志院

あさめ乃たなよそ霞むむ霞むむ霞の白雪 霞

夕日と次山の霞もくれあめ乃こそあやまの夜半らん 日

くささきも霞のさかみちのさかみちの霞むむ霞 道志院

あさめ乃たなよそ霞むむ霞むむ霞の白雪 霞

晚霞隔旅山

連峯霞

連峯朝霞

遙峯帯晚霞

嶺樹霞

嶺樹帯霞

春洞霞

旅行の情糸もつらつらと霞のさか原集

あさめ乃たなよそ霞むむ霞むむ霞の白雪 霞

夕日と次山の霞もくれあめ乃こそあやまの夜半らん 日

くささきも霞のさかみちのさかみちの霞むむ霞 道志院

あさめ乃たなよそ霞むむ霞むむ霞の白雪 霞

夕日と次山の霞もくれあめ乃こそあやまの夜半らん 日

くささきも霞のさかみちのさかみちの霞むむ霞 道志院

あさめ乃たなよそ霞むむ霞むむ霞の白雪 霞

霞隔浦松

候霞

鴉霞

孤鴉霞

霞為鴉

遠鴉朝霞

右渡霞

右郷霞

都霞

霞浦村

松は浦のまはれは松たより松とゆふ松の村立 隆行

あはれなる霧のたもたれたれよあはれ浦の松原 隆家

うらやましくあはれなるれは凡乃日一ま砂の吹上の深み氏 十吉

まきとまきと公守の波はちやうりん沖の波は錦 宋雅

孤鴉ひらひらと名はもあはれ仲の波は錦 隆行

あはれ日とまきと住者の家のむらや波は錦 隆家

まくれ籬の波はかきわとあはれ衣なりや波は錦 隆家

仲川はあはれなる波は錦 隆家

右の字とては波は錦 隆家

あはれ波は錦とてあはれなる波は錦 隆家

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦 隆家

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦 隆家

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦 隆家

霞隔村

遠村霞

里霞

水に霞

霞為水に

山家朝霞

山家夕霞

霞隔山家

霞中雨居

まきとまきと公守の波はちやうりん沖の波は錦

あはれ波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

あはれなる波は錦とてあはれなる波は錦

松上霞

霞隔遠樹

霞鏡樹

霞春衣

霞隔行舟

羈中霞

朝尋霞外寺

松上霞
霞鏡樹
霞春衣
霞隔行舟
羈中霞
朝尋霞外寺

霞隔遠樹
霞鏡樹
霞春衣
霞隔行舟
羈中霞
朝尋霞外寺

霞鏡樹
霞春衣
霞隔行舟
羈中霞
朝尋霞外寺

霞春衣
霞隔行舟
羈中霞
朝尋霞外寺

霞隔行舟
羈中霞
朝尋霞外寺

羈中霞
朝尋霞外寺

朝尋霞外寺

寄霞無常

寄霞述懷

○鶯

く川鶯

なうくひと

表の真乃言

竹の表乃言

表乃言

寄霞無常
寄霞述懷
○鶯
く川鶯
なうくひと

表の真乃言
竹の表乃言
表乃言

表乃言
竹の表乃言
表乃言

表乃言
竹の表乃言
表乃言

表乃言
竹の表乃言
表乃言

法下

九四

身どうくひも

述懐より

数十年前の事

たつたやう

たつたやう

昔の事

人ごころ

日

昔の事

昔の事

つらつら

昔の事

つらつら

昔の事

つらつら

昔の事

つらつら

昔の事

千世の吉原

千世の吉原

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

つらつら

夢にまはる

金葉 夢のまはるはまはるいにてまはる

夢にまはれぬ

金葉 夢にまはれぬはまはるいにてまはる

時ある夢

日 時ある夢はまはるいにてまはる

白ひかゝる夢

香葉 白ひかゝる夢はまはるいにてまはる

夢乃あや

日 夢乃あやはまはるいにてまはる

夢乃あやと

建保三年 夢乃あやとはまはるいにてまはる

知友 夢乃あやとはまはるいにてまはる

夢乃あやと

末 夢乃あやとはまはるいにてまはる

夢乃あやと

日 夢乃あやとはまはるいにてまはる

夢乃あやと

文政三年 夢乃あやとはまはるいにてまはる

夢乃あやと

日 夢乃あやとはまはるいにてまはる

夢乃あやと

日 夢乃あやとはまはるいにてまはる

夢乃あやと

日 夢乃あやとはまはるいにてまはる

持大納言 夢乃あやとはまはるいにてまはる

ほひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

とらふりて ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

とらふりて ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

青柳の枝をい ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

芳よひとぶ 詩小も明霧は駕啼尚少とらひとととあかか記

花ようけらふ ちかひととと ちかひととと ちかひととと ちかひととと

新後依
あつとて竹の枝よきとていづらうの鳥乃と急 春山後
見たりとけりつる ことこの初のをかねてあつとつていづらう

南さす枝よ明
ことこの初のをかねてあつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

花の初よ来
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

雲のうら
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

あつとつていづらう
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後
あつとつていづらうの鳥乃と急 春山後

ひたす川つきて 雪の子とりつれん

介内屏比 雪乃ひかりつれて 朝きく寸むの絲くしと 雪乃ひたす 後徳寺院

田舎の谷乃と

赤集 深山の谷よとと 川つる 程よいあり 乃谷のしとと

けしりしむ

万 雪乃これ 雪乃とて ひと雪乃 枝を けしりしむ 乃人丸

綴かると毛

丈木 雪の毛乃とと

羽たうら

赤集 雪乃乃谷の雪がとて 羽たうらに 口ととと 情備

おそく

族子 雪乃乃谷の雪がとて 雪乃乃谷の雪がとて

おれりか

左今 雪乃乃谷の雪がとて 雪乃乃谷の雪がとて

雪乃乃谷の雪がとて 雪乃乃谷の雪がとて 雪乃乃谷の雪がとて 雪乃乃谷の雪がとて

雪と雪乃

赤集 雪と雪乃の雪がとて 雪と雪乃の雪がとて

雪乃雪乃

歌林 雪乃雪乃の雪がとて 雪乃雪乃の雪がとて

雪乃雪乃

新集 雪乃雪乃の雪がとて 雪乃雪乃の雪がとて

雪乃雪乃

新集 雪乃雪乃の雪がとて 雪乃雪乃の雪がとて

雪乃雪乃

新集 雪乃雪乃の雪がとて 雪乃雪乃の雪がとて

雪乃雪乃

出久後世 雪乃雪乃の雪がとて 雪乃雪乃の雪がとて

雪乃雪乃

雪乃雪乃の雪がとて 雪乃雪乃の雪がとて

春と争ぬ
歌集 春と争ぬ 春と争ぬ 春と争ぬ 春と争ぬ
後柏原院
 春と争ぬ 春と争ぬ 春と争ぬ 春と争ぬ
後柏原院

春乃里と
歌集 春乃里と 春乃里と 春乃里と 春乃里と
後柏原院
 春乃里と 春乃里と 春乃里と 春乃里と
後柏原院

春乃里と
歌集 春乃里と 春乃里と 春乃里と 春乃里と
後柏原院
 春乃里と 春乃里と 春乃里と 春乃里と
後柏原院

鶯告春
歌集 鶯告春 鶯告春 鶯告春 鶯告春
後柏原院
 鶯告春 鶯告春 鶯告春 鶯告春
後柏原院

鶯知春
歌集 鶯知春 鶯知春 鶯知春 鶯知春
後柏原院
 鶯知春 鶯知春 鶯知春 鶯知春
後柏原院

春來鶯遊
歌集 春來鶯遊 春來鶯遊 春來鶯遊 春來鶯遊
後柏原院
 春來鶯遊 春來鶯遊 春來鶯遊 春來鶯遊
後柏原院

雑木春

三十一

鳥とてさうくつたれは我雷もや〜とくつたは〜
〜とて鳥と待たせり〜とてさう〜

夜集 善い鳥は〜の松に社は〜の鳥は〜
道元

金葉 鳥よりや木のま枝よ鳥のま里た〜
鳥集

鳥の初ま〜りしはあれ〜
〜とてさう〜

歌 鳥の初め〜
政

早鳥聲

日 鳥の初め〜
鳥集

早鳥猶若

鳥の初め〜
鳥集

舊泉鳥

鳥の初め〜
鳥集

鳥辞巢

鳥の初め〜
鳥集

晚鳥入霞

鳥の初め〜
鳥集

鳥馴

鳥の初め〜
鳥集

月前鳥

鳥の初め〜
鳥集

隔霞聞鳥

鳥の初め〜
鳥集

霞裏聞鳥

鳥の初め〜
鳥集

雪中聞鳥

鳥の初め〜
鳥集

雪朝聞鶯

雨中鶯

雨後鶯

曉更鶯

鶯曉啼

寢覺鶯

曙鶯

朝鶯

每朝聞鶯

夕鶯

山鶯

歌

雪の朝の鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

文の字をわきまて曉すてし

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

谷鶯

鶯出谷

餘寒鶯

林鶯

林辺聞鶯聲

野鶯

寒野鶯

野朝鶯

野亭鶯

後集

谷の鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

鶯の啼く声は春の柳の心さへも後

関路圃管

行路圃管

水邊管

河邊管

浦管

海邊管

古寺管

古郊管

里管

田中管

隣家竹管

おれくもねも到ぬの近き處乃おれくの管れす 作兼

あつうよつあもあつうの管乃明も色も其の管 歌兼

いづくせと行くこころ樹くのこころふかれ管の 後柏原後

樹く乃下り水乃使ふもこそれとけつ管の夢 亦隆

川乃よつこころあつうの管乃こけいふと花の下水 道冬後

管乃おれよとたつこ難は川よつこの枝も管やこの心 隆信

なつこや彼の心管つれよと管と管と明 雅世

おれよこの心書や初能ふよつこの鐘よ管乃夢 後柏原後

凡そそれ白雲のあつこころのこころあつうの心 秋河

善つあつうの樹のむらうこころこれ後る管の夢 耕久

田中八困若のこころこ 菅のあつう書よれつくる人あつうの心書よのこ里 西行

窓前管

竹裏管

竹間管

竹籬圃管

竹亭圃管

山家管

田家管

松管

松間管

夜集 月一く八通絲乃竹の枝のこころあつうの心書よのこ里 西行

後千 朝こよつ管乃夢のこころあつうの心書よのこ里 西行

朝 竹裏の竹のこころあつうの心書よのこ里 西行

後千 朝こよつ管乃夢のこころあつうの心書よのこ里 西行

朝 竹籬の竹のこころあつうの心書よのこ里 西行

夜集 秋おれおれ籬の竹の内は長くはつうの心書よのこ里 西行

朝 竹亭の竹の下は朝の竹又よつこの心書よのこ里 西行

朝 朝近き絲くの竹乃下り水乃使ふもこそれとけつ管の夢 道冬後

夜集 山あつうのこころあつうの心書よのこ里 西行

夜集 朝こよつ管乃夢のこころあつうの心書よのこ里 西行

朝 朝こよつ管乃夢のこころあつうの心書よのこ里 西行

梅近聞鶯

家らつと梅うしよと鳴をそへお叶いよと

鶯鳴梅

鶯れくとのちりり鶯れあつと梅くは鶯れ梅く道なき

花間鶯

むいといとふさとも梅うしよと梅うしよと梅うしよと

鶯呼友

雲よ入付つしむの梅うしよと梅うしよと梅うしよと

鶯為春友

このうたをうしよと

鶯飛友

けあひ鶯乃人の友となれりよ

鶯千春友

谷もそも梅の友と梅の友と梅の友と

鶯是万春友

どの友と飛うしよと

鶯飛友

梅なうねいとさひや鶯とわれとよとよとよとよと

鶯千春友

けあひ人の友と千世の友の友と

鶯是万春友

りううしよと梅の友と梅の友と梅の友と

鶯是万春友

梅なよりのうしよと梅の友と梅の友と梅の友と

鶯閑中友

鶯ハ閑中友

春鶯呼容

谷深く鶯ももいれいと鶯との友やうしよ

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

春鶯呼容

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

鶯聲猶稀

鶯乃あつと梅と梅と梅と梅と梅と梅と

老鶯

源氏物語
老鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
老鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
老鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

鶯飯谷

新集
鶯飯谷の鶯も谷の老とよころる
鶯飯谷の鶯も谷の老とよころる
鶯飯谷の鶯も谷の老とよころる

羈中園鶯

新集
羈中園の鶯も旅よりか長旅
羈中園の鶯も旅よりか長旅
羈中園の鶯も旅よりか長旅

各所鶯

新集
各所の鶯も旅よりか長旅
各所の鶯も旅よりか長旅
各所の鶯も旅よりか長旅

残鶯

新集
残鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
残鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
残鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

深山猿鶯

新集
深山猿鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
深山猿鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
深山猿鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

鶯有慶音

新集
鶯有慶音の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
鶯有慶音の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
鶯有慶音の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

鶯知万春

新集
鶯知万春の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
鶯知万春の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
鶯知万春の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

春情有鶯

新集
春情有鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
春情有鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
春情有鶯の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

寄鶯述懐

新集
寄鶯述懐の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
寄鶯述懐の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
寄鶯述懐の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

○若菜

若菜の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
若菜の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる
若菜の老と知れぬ二夢をまてれくて今もえさこゆる

花火のころれ

花火 遠くより表乃衣善からきてはるのころれ冬やつちり 衣笠雨衣
群の伝はせくるりつれ

海田乃ころれ

新子 踏ふて花火のころれより人雪をりてまふ白根は 以製
日 善法に雪をたぬく袖おれては田のあれくを掃つる 伏元夜

ころれの

定座 あらうらうらうら

雪乃あられ

定座 雪やらあは乃氷くさきてれくまのあられ掃く 定季

花火のころれ

新子 善法に雪をたぬく袖おれては田のあれくを掃つる 伏元夜

ころれの

新子 善法に雪をたぬく袖おれては田のあれくを掃つる 伏元夜

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

大和の名は

こいのころれ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

あらのわられ

大和の名は

新書上

五十五

二葉がらうられ

五代 あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚 後九青巻
あつとて二葉れうられ 明玉

終乃うられ

飛鳥よちる三葉れうられ社まよひむらやまなれ 季澄
終のうられ 十音集

鴨乃うら

まきうらて終乃うられ揚まよ言れ種を松の白雪 隆信
うられのこころなるをいふ

うらうら

まき うらうら 終乃うられ うらうら

うらうら

うらうら うらうら 終乃うられ うらうら

うらうら

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚 西行

うらうら

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

うらうら

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

あされ

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

うらうら

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

雪乃のうら

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

終乃うら

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

芥川む小田

あつとて乃志守の古流かきかて雪々のあけ冬も揚

川とる
ととせり
あせり

新ひらちも水田乃あせり川并にねて社をとり家
日くくしふちりて定まる島并りのあせり有せり家
あせり

水田乃と并

新水田乃あせり

信実

あせり

新あせり

あせりのあ

あせりのあせり

信実

あせりのあ

あせりのあせり

七の朝乃七と

七の朝乃七と

信実

あせりのあ
あせり

新あせりのあせり

あせり

あせり

あせり

あせり

新あせり

あせり

あせり

新本

新本

若菜初時

此節と初てしるれ乃初つて

前山つらつれおれと若菜社告知のいへり初れ 政書

若菜処々

いせ彼中へ初れと

若菜多

日 里人ゆふとて若菜乃初ゆふの初と初れ 初れ 初れ

雪中若菜

日 川と入るしそ初れゆふ人女若乃初と初れと初れ 雅歌

雨中若菜

日 若菜と初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 生家

朝若菜

日 初人々初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 無名

夕若菜

日 若り初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 絶宗

岡上若菜

上乃字初れ

野若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 後柏原院

原若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 雅歌

路若菜

初路又と長初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ

澤若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

水邊若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

田若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

田家若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

水郷若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

寄若菜还懐

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

若菜契還年

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

寄若菜祝言

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

多春採若菜

初乃初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ初れ 初れ

我がのちのれとてあつて人々の善と稱んすは後志

○猿雪

あつたゆき

あつたゆき

若集

萌ゆるかき跡のこけ村のふ縁とあつてのこけ雪 時祐友

去年乃白雪

善なれとれぬきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

於雪とゆき

あつたゆき

後集

善なれとれぬきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

去年乃白雪

あつたゆき

後集

善なれとれぬきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

あつたゆき

あつたゆき

後集

善なれとれぬきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

あつたゆき

あつたゆき

後集

善なれとれぬきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

日氣乃下小抄 ^{成集} 山さきさきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

さき乃とゆ ^{石集} さき乃とゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

山のさきとゆ ^{成集} 山さきとゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

善のこけゆき ^{千集} 善のこけゆきとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

善乃とゆ ^{千集} 善乃とゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

村乃とゆ ^{千集} 村乃とゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

山猿雪 ^{成集} 山さきとゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

嵩猿雪 ^{日集} 嵩さきとゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

谷猿雪 ^{成集} 谷さきとゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

谷底猿雪 ^{成集} 谷さきとゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

世猿雪 ^{千集} 世さきとゆとて雪とあつてゆきとて雪の白ゆきとて雪の白

世猿雪

世下承二

四十一

杜残雪

野残雪

野住残雪

山路残雪

樵路残雪

水边残雪

鹄残雪

巖残雪

山家残雪

庭残雪

垣根残雪

草残雪

千段と此弱の心をりぬる人もとらぬ雪乃徒老 称名院

水集 かつ乃ねのこいといはむしりぬる雪の時急流 後柏名院

新集 かりつに去る乃白雪村はてはるしむるの乃通ち 俊光

原集 谷川の岩を雪乃雪の雪あはれ路乃むと社とれ 善法

樵路木くりのゆりゆり

村は乃雪もされたる山は乃木は乃る去る村雪 改彦

いふあてはあたる雪の雪あはれ少くもあはれはのけし 雅衡

白妙と雪越ぬもされたるは乃雪あはれ 雅世

川乃雪て若乃雪とてさるる谷乃岩根に積る白雪 冬良

新集 稀くも人もあはれ松の雪の雪あはれ雪の雪 後多行院

文と雪とありそは乃雪あはれ雪あはれ 後柏名院

千段 公れと雪くさぬは雪とては乃雪あはれ雪あはれ 作兼

雪やらぬ雪あはれ乃川はの流は乃雪あはれ雪あはれ 日

竹残雪

竹间残雪

竹畔残雪

松残雪

松下残雪

木残雪

残雪半藏梅

残雪処々

内集 竹乃竹のなかりし雪くそ乃雪あはれ雪あはれ 後柏名院

间乃雪をれ竹の雪あはれ雪あはれ 日

雪竹乃雪くそ乃雪あはれ雪あはれ 日

畔乃雪をれ雪あはれ雪あはれ 日

原集 雪乃雪をれ雪あはれ雪あはれ 日

うかろ雪あはれ雪あはれ雪あはれ 日

松下残雪

千段 凡そこたふさう雪といふる雪あはれ雪あはれ 作兼

木乃諸木をれ雪あはれ雪あはれ 日

雪あはれ雪あはれ雪あはれ雪あはれ 日

雪あはれ雪あはれ雪あはれ雪あはれ 日

西く雪と秋に樹乃月枝をきて雪あはれ雪あはれ 日

処々雪あはれ雪あはれ 日

樹陰散雪

内集 前あつらふそはあつらふ村陰に雪も春あけのよふ 後柳屋
森集 下とちて落るるつらつら松陰に春にけりも春の 実陰

○春雪

延文百 けしき 垣内の雪乃下落るは雪をいそく 春は淡雪をる女
新右 けしき 枝の雪乃下落るは雪をいそく 春は淡雪をる女
あり雪のつらつらやうと又枝をいそく 春は淡雪をる女
さうあつらふの付足として春の枝よりつらつら淡雪 柳中納言

森集 仙人のむくは雪乃あけをけあをふてふれる白雪 成陰
新右 仙人のむくは雪乃あけをけあをふてふれる白雪 成陰
くちりふりゆる雪乃あけをけあをふてふれる白雪 成陰
春のつらつらやうと又枝をいそく 春は淡雪をる女
ていはいい

実陰 前あつらふそはあつらふ村陰に雪も春あけのよふ 後柳屋
森集 下とちて落るるつらつら松陰に春にけりも春の 実陰

霞中春雪

百々 春をきてあつらふ

春雪消

百々 春をきてあつらふ
雪をきてあつらふ
雪をきてあつらふ
雪をきてあつらふ

春雪欲消

百々 欲の字むいり

春淡雪

百々 春をきてあつらふ
春をきてあつらふ
春をきてあつらふ
春をきてあつらふ

春雪散風

森集 春をきてあつらふ

春洞雪

新右 春をきてあつらふ
春をきてあつらふ
春をきてあつらふ
春をきてあつらふ

野春雪

新右 春をきてあつらふ

山家春雪

森集 春をきてあつらふ

春雪似花

新右 春をきてあつらふ

雪消松緑

歌集

かりけり雪乃消あれ松の緑はなれし

新右

かこし雪乃消つるもなれし松の緑はなれし

二月雪落衣

初ふじ風も熱や吹つらん雪れ神はれず 康安毒

○餘寒

新右

春もやらぬ

さへはれ春もやらぬ風きて雪あふふりつ春はあ 長安下

春もさゆり

春もさゆり雪落きて流るる春もさゆりは社とれ 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり

春もさゆり

春のさゆり春のさゆり春のさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

水又ひきこみ

水又ひきこみ水又ひきこみ水又ひきこみ 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

春もさゆり

春もさゆり春もさゆり春もさゆり 長安

於志く少
うげく火

六石中
善くして於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

月 休をたうけうけく火のちりく
善くして於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

冬ふも教了

夫木
善くして於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

・さむくうらぬ

餘寒風
・産をたうけうけく火のちりく
於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

・善乃りくさぬ

餘寒雪
・冬よやくうらぬ
於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

・さくうらぬ

餘寒氷
・於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

餘寒月

狭隈吟
於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

餘寒雪

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

餘寒霜

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

餘寒風

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

餘寒嵐

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

霞中餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

餘寒氷

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

二月餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

晴餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

山餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

溪餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

深溪餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

池餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

山石餘寒

於志く少に室くうりひの氷れをうらぬ也 兼宗

○梅

新木の梅は白く花の井のまきしつゆを水とてなる無名

梅乃の川む

八重むめ

百木乃梅

是さく梅

こやこ乃梅

舟の南の梅

近ねあまの梅

あま乃梅

あま乃の梅

歌

老梅乃の白くゆれ枝るをともふ木は梅の初む 雅世

みづ白くさくしりれ八重梅元きかろくくあまじと縁

歌多みる梅かろくくあれらち百木乃梅なる

こそこの乃乃木は梅乃あまじれ天よきかろくくあまじと縁

諸むよ是さくしりれあまじと縁かろくくあまじと縁

も乃中く是さく梅の心とくさくあまじと縁かろくくあまじと縁

さひやろかあまじと縁かろくくあまじと縁かろくくあまじと縁

くろく乃舟の南乃梅は初むかろくくあまじと縁かろくくあまじと縁

近ねあまの梅は初むかろくくあまじと縁かろくくあまじと縁

あま乃の梅は初むかろくくあまじと縁かろくくあまじと縁

あま乃の梅は初むかろくくあまじと縁かろくくあまじと縁

あま乃の梅は初むかろくくあまじと縁かろくくあまじと縁

南や水の梅

ねぐの梅

梅じ乃梅

三年乃梅

くぐの梅

石ころころ

梅の下じき水

とどろまが

梅の白

梅の白

梅の白

梅の白

久松

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

夫木

梅乃の川む

四十一

ふべの松

文木 室初らむの松のめらむとむの皮と君やとらん 道信

た王乃 松原

立結 大慶歌とらむの松のまらむ

とそこの松

一本もふ白ひなまきとる王乃松原をさひたやれ 後成

ゆこの松

赤集 雲くればとそこの松乃つらつらと姓せのちきるん 清輔

世中乃松

千尋 ともともちかあゆむ諸人のちるあやれのこの松を 耕三

まぐとの松

文木 ともはつはれもまきさひいゆん世中の松のよそは 日

うら糸川

赤集 善あつまつらむの松のむ筆枝をさむの雪うとま 光明寺

とそこの松

行らつらつと糸川にの松をさひて世のつらつら 赤松

と乃これ

どこれあつまつらむとまきさひて松のむあまは 小舎

とこの松

兄花とらむり松の結花乃初とまらむのこの松 右平

とこの松

かみつらつらとまきさひて松のむあまは 王仁

一とこれ

あつまつらむとまきさひて松のむあまは とも

この松

朝あつまつらむとまきさひて松のむあまは 後物

木毎

梅の文字木毎の毎の字とまこれハ文字とま 康道

花乃松

善のよはつまつらむとまきさひて松のむあまは 崇徳院

とこの松

あつまつらむとまきさひて松のむあまは 政光

とこの松

あつまつらむとまきさひて松のむあまは 原

おのこそあ

日 ぬも今やうきよきの松は清くまへは清くまへと改る
歌林 こそちの懐海へいひおとすよ
うきよきの松は清くまへは清くまへと改る
新古今

くさつらさ

永正五年二 ちの松は清くまへは清くまへと改る
後柏原侯

おめちり

歌集 松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

まじひ花
のさ

ま未 白くまへは清くまへは清くまへと改る
信実

うきよきあ

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

かゆまづ

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

うきよき香

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

おどりり乃

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

歌集より
白の

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

ぬも今やう

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

白ひ乃ちり

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

うきよき白

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

松がなま

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

ぬも今やう

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

白ひをき

松のむね白く日影よみおもひ雪の松のむねを
道々後

うへへ〜
侍をよびのむも信らり家松とて一松のあ木に 宋雅
万代のうじ 郁青三系
万代乃く〜おん松を雲打乃まかきもりし 紀宗

老うくくやと
松とれてく〜いさやうく〜

たのふにい
まうらさ
雪乃まき〜松むお〜らんかひ〜

とが神あり 夜集
冬うぢ〜松をぢの松くや唯雪ををいのみれり 道成院

松葉がら有 新古
とら〜松さ〜われ我有を〜たもふお〜社よ 西行

あらしゆ〜 荻原
あられ〜えそ〜やうたのやあ〜ゆじ〜宿松 永福門院
月信

く〜とあ〜と 万
く〜とあ〜と〜松を松む〜の今〜松う〜松 貴之

あられ〜 万
あられ〜松〜曲あれ〜

松〜と〜 万
松むと松〜入〜松〜松〜松

引〜と〜 万
引〜と〜松〜松〜松〜松〜松

松のわ〜 万
松のわ〜松〜曲あれ〜

夫木
松のわ〜松〜曲あれ〜

わ〜と〜 新千
わ〜と〜松〜松〜松〜松〜松

八〜と〜 新千
八〜と〜松〜松〜松〜松〜松

あ〜と〜 新千
あ〜と〜松〜松〜松〜松〜松

り〜と〜 新千
り〜と〜松〜松〜松〜松〜松

雪〜と〜 新千
雪〜と〜松〜松〜松〜松〜松

ち〜と〜 新千
ち〜と〜松〜松〜松〜松〜松

垣〜と〜 新千
垣〜と〜松〜松〜松〜松〜松

枕〜と〜 新千
枕〜と〜松〜松〜松〜松〜松

尋梅 延文市
尋梅〜松〜松〜松〜松〜松

暗夜得梅花 延文市
暗夜得梅花〜松〜松〜松〜松〜松

あ〜と〜 延文市
あ〜と〜松〜松〜松〜松〜松

ち〜と〜 延文市
ち〜と〜松〜松〜松〜松〜松

梅花告春

れ ぐんれがさ社にね梅をありといわういれある八重如
わちのむきそめく善ふとてと人よ告る

家集 善乃より言青きとてや梅より人梅のむき 巨徽

依梅知春

れ 梅の候をわらうとて言と知る

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

栽梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

栽梅侍管

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

若木梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

老樹梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

梅未開

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

梅始開

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

露暖梅開

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

新正梅

朝日影のちる梅よあられいあきくく梅ありする 御花

初梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

折梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

梅花盛

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

梅盛開

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

梅花盛久

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

逐年梅盛

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

見梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

多年望梅

梅のむきよらじも言らする言の初凡 曾相

梅

五十一

歌梅花

日 去春よりむらじの境をさす梅とて幾重のさるる梅の如し 云々

歌集 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

多春歌梅

日 去乃よりむらじの境をさす梅とて幾重のさるる梅の如し 云々

月并梅

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

月照梅花

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅花不異月

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅風

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅薫風

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

依風知梅

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅雪

新集 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

雪中梅花

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅間雪

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅花带雪

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅似雪

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅花混雪

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

梅花狀雨

歌 梅の如くはたけの身は梅むらじとてわけてや雪の如く 乃後院

霞中梅

曉更梅

朝梅

夕梅

梅夕薰

夜梅

夜思梅

夜風告梅

梅薰夜風

梅香夜多

夜集
いこうま枝の梅のいかに白ひとててく日暮く定夜

年月の老くこち梅愛さふおれ多事く梅くす時改為

梅く乃後さくりにめくめられ社正月も梅くは梅河

分て枝の梅く乃梅のむも夕およ白ひ去此 万世

此の中よめくつら夕白の氣かろく社を地竹梅は凡 伏又夜

永梅下
之の梅のく乃むくくく愛のあらぬ現も梅くを尽 冬寺宮

夜集
梅を梅に梅く小なるはにやこのうけ白ひかくた 忠夜

凡の梅乃白ひとてて梅ありと冬

くありて梅く吹くる風をれおれおれ梅の白ひは 意長

きくくきくきくのうはよの梅とて此の儀と梅乃下凡 為家
梅の梅よほされ梅の梅の白ひも多おれゆると也
日
くくくく梅くはくり白ひおとくく凡の使くわくさ 下野

梅花夜芳

暗夜梅

深夜梅

梅香移柳

梅有色香

梅遠薰

梅遠白

梅花久芳

梅久薰

梅交松

梅花
梅くはくめも梅と雲のよは梅ぬ梅とく白ひわくは長房

しめ乃白ひ愛ふ梅く白ひもやめ乃現は梅くは梅く 津有

くくく乃社の白ひは梅く下の梅くは梅くは凡 実雄

梅柳ききくくして梅の白ひの梅くはくく

梅くはく梅のむくくくくくくくくくく 吉寺
夜集
梅はく香兼梅のく

くら河くく身をそまを梅く白ひの梅くはくく 清備

梅くはく梅くくくくくくくくくくく 後梅

日
立枝くくくくくくくくくくくくくくく 凡の梅く 日

梅くくく乃乃年梅とてくくくくくくくく 牙貞
夜集
梅くくくくく乃乃くくく白ひてくく梅くはくく 雅歌

夜集
梅くく梅くくくくくくくくくく 梅

梅交松芳

幸きと松名のをそ梅とていれしもの清風 道之屋

山邊梅花

辺乃字をりし梅とておけ

ふのり乃丸木らしきまら乃梅のさしよとて 保仲心

山路梅花

山路芳ののちとていれ

さかかもあつては歌一梅むくまのめちのさ 定成

園梅

まは定成の人やうとてあてかりの雲乃梅の本は平 後和彦

路梅

こしあをともむきまてるさきこち梅の丸 道之屋

行路梅

こり社乃性さむれし梅のさしよとていれ 家隆

梅香坊路

梅くまふとてあつては路の坊とていれ

野梅

梅むのささふらうとてあてしりていれ 家隆

野宮梅

どのけうけさうとて梅くを社よとてあてのさ 家隆

野宮梅

此乃やうり梅く野宮のふけさうとてあてのさ 家隆

又ハ此位野宮又ハ野宮のふけさうとてあてのさ 家隆

野亭々梅

野亭乃のふらうとていれ

水畔梅花

水畔乃水さし梅のさしよとていれ 家隆

梅移水

梅むのささふらうとていれ

池岸梅花

池のさしよとて梅のさしよとていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

津梅

津ハ舟津がうり名ハ津波津とて津とていれ 家隆

湖邊梅

里梅

遠村梅

梅村聞笛

梅花誰家

禁中梅

隣家夜梅

故郷梅

古宅梅

家集

湖邊梅 湖邊の梅人乃信筆と書きたるは

里梅 里の梅 影後

遠村梅 遠村の梅 凡我

梅村聞笛 梅村の笛 家集

梅花誰家 梅花の誰 家集

禁中梅 禁中の梅 日

隣家夜梅 隣家の夜梅 日

故郷梅 故郷の梅 日

古宅梅 古宅の梅 日

梅花乃 梅花の乃 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

戸外梅

山家皆梅花

梅薰庭

庭梅春久

閑庭梅花

梅花薰砌

古砌梅

簷外梅

戸外梅 戸外の梅 家集

山家皆梅花 山家の皆梅花 家集

梅薰庭 梅の薫庭 家集

庭梅春久 庭梅の春久 家集

閑庭梅花 閑庭の梅花 家集

梅花薰砌 梅花の薰砌 家集

古砌梅 古砌の梅 家集

簷外梅 簷外の梅 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

梅花乃 梅花の乃 家集

簷梅薰風

^{新集} 簷の梅の枝の風を吹かすものなり。白ひに似て、兼木養上

籬梅

^{出集} 籬の梅の枝の風を吹かすものなり。白ひに似て、兼木養上

窓前梅

^{兼集} 窓前の梅の枝の風を吹かすものなり。白ひに似て、兼木養上

窓下梅

^{兼集} 窓下の梅の枝の風を吹かすものなり。白ひに似て、兼木養上

窓梅封雪

^{兼集} 窓の梅の枝に雪を封ふものなり。白ひに似て、兼木養上

梅花薫窓中

^{兼集} 窓中の梅の枝の香を薫るものなり。白ひに似て、兼木養上

梅入用

^{兼集} 梅の枝を白ひに似て、兼木養上

梅香薫衣

^{兼集} 梅の香を白ひに似て、兼木養上

梅近衣香

^{兼集} 梅の枝の香を白ひに似て、兼木養上

梅花深衣

^{兼集} 梅花の深衣を白ひに似て、兼木養上

梅苗衣

^{兼集} 梅の苗の衣を白ひに似て、兼木養上

梅移袖

^{兼集} 梅の枝の袖を白ひに似て、兼木養上

梅香苗袖

^{兼集} 梅の香の苗の袖を白ひに似て、兼木養上

梅花薫曉袖

^{兼集} 梅花の薫の曉の袖を白ひに似て、兼木養上

梅香薰枕

^{兼集} 梅の香を白ひに似て、兼木養上

依梅侍人

^{兼集} 梅の枝を白ひに似て、兼木養上

称賛梅香

^{兼集} 梅の香を白ひに似て、兼木養上

祢覺梅風

梅迎客

梅免得客

旗宿梅

落梅風

落梅香

洞落梅

梅浮水

梅散得客

法集 大才乃善のさうとさひぬの愛路は淡し梅乃凡 後柏葉後

赤集 梅吹ぬれ心さうさう人の向くる程に逢客と云し

赤集 いけ乃凡の白ひう人をさういけ人言も昔有は梅 逢客後

法集 歌の心かたお好し免八厨

赤集 梅うささうの人も言乃梅くあうそふ此後 後柏葉後

赤集 梅ゆる昔乃梅の梅りうさう梅乃白ひ梅り 西行

赤集 冬木より吹初しう雪かうし落し衣よふ余凡 冬客

赤集 新川のさし此落梅あやうさう梅りうさう白ひれ 同

赤集 谷乃とふお梅の梅乃りつる流をさうかは七 法集

赤集 梅むあうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 道空院

赤集 梅さうりかう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 何人のさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

梅落衣

散孩梅

南北梅花

南北梅異

梅有佳色

梅有嘉色

梅度年香

梅花度年

法集 梅はうの梅りうさう梅りうさう梅りうさう 行旅

赤集 梅あうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 うさうりあう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 梅りうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 南は陽より春暖もやうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 梅りうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 どの川より日影乃さう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 佳色乃佳うさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 梅りうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 梅りうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 度年以年と鐵さう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 香あそ梅りうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

赤集 冬と梅りうさう梅りうさう梅りうさう梅りうさう 同

梅度年花

梅契多春

梅有遅速

梅紅白

白梅盛

風搖白梅朶

紅梅遲

紅梅盛

雨中紅梅

法集 冬木乃梅のいとくさむいんらるる善風は後柏葉院

日 善をてつ常くは吹梅かれ方代々せの乃上人吹海院

流集 南校中校乃らもあつらん

梅花執ら乃枝よあ雪の吹せこれらむい節より善信

玉梅白梅乃らむし

日 つけらるるを海人白梅もむいんらるるむら乃あ持季

白つらと降雪の雪乃さかろくくき吹梅れむの雪ハ乃水

凡乃白梅乃枝よふれて枝のくくし

流集 乃乃きのこひ乃わらむいんらるる梅の善枝の善枝は道徳院

善源を朝子の梅乃あは雪くれ梅吹らとせとる雅世

日 雪くようあはすくよあ乃梅のさうそ善のさく此重者

日 善あ乃末くもあれてあ乃あさうめら梅乃むり乃氏

○柳

あひ柳

を柳

志ざりし柳

志ざりし柳

五柳柳

柳乃を

丸柳

乃の柳

日 月さく色かきくさむいん柳

かきくさく色乃流のさむい柳ハこれ東のを承けて後忠

末 柳柳あさくさく長月乃らむいんらるるあはれ和泉寺

志ざりし柳も

日 いけいんと老乃節をのそ乃さくし社後れ志ざりしと善京石燈

善をあさく柳あも善はあは乃は梅らあさくさく柳香徳

五柳先生よりつらんし

流集 赤門の五柳柳いさうそ善よああなる善と知らん清浦

丸乃乃柳のを八淋とて善あつらんさくこれのやと中務院

あつらんし色乃そいのお柳さくさくはれ枝もあ源仲心

乃の辺よある柳かきくさく

玉梅乃乃乃の柳善くれあさくあ人のうはさくさく善信

みづのり柳

川さうりくあま用く柳や

文木 善い柳やうりうりはれあふ舟の折かきとる 実作

冬木乃柳

冬木しる柳なる

新六 善い乃柳とく川さくれ冬木乃柳を付より 初夜

冬乃柳

万 善いれの冬乃柳なる人のうらみとくあまの 清いふか

冬を新れり柳

流集 かく川の冬を新れり青柳とていふよとてさなる 清浦

入江の柳

歌 入江乃入江の柳なるては信も孫乃とやそらん 光明峯

あし柳

玉紫 かしら柳なる

くら木の柳

流集 かしら木田河系乃柳枯れそとれも深きなり 後夜

青柳の陰

流集 ともとのくら木乃柳長とハさひさくくくく 此流 彦隆

あし路

流集 かしら路のなるそく柳や枯れまよとて 洗光俊

柳り草

流集 しの天志の柳なるそく柳陰なるそく社立なる 西行

甲申此の左柳

白月七夜 かしらる甲乃路の古柳あそ乃流なるあまこくく み氏

さし柳

流集 かしら木さし柳なる

さし柳

流集 かしら乃路のなるそく柳や枯れまよとて 洗光俊

さし柳

月 里近さ近乃川のさし柳なるそく柳なるそく 海仲心

さし柳

日 善い柳なる

さし柳

日 池水のけささるさし柳なるそく柳なるそく 三川

あし川柳

流集 跡川し近江のなる

あし川柳

流集 かしら川柳なるそく柳なるそく 白波 沢庵俊

あし川柳

流集 かしら川柳なるそく柳なるそく 洗光俊

あし川柳

門の入口の柳

あし川柳

流集 かしら川柳なるそく柳なるそく 柳下 元 和泉寺

あし川柳

流集 かしら川柳なるそく柳なるそく 清浦

岩祿くくくく丈木ふく川の岩祿くくくく青柳のちりれをほく白皮長葉物

夕かきびさ

夕かきびさ百葉

わらうと柳乃枝の夕かきびさ魚釣

つりこころ

魚釣魚釣

おそろふ系

新六

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系新後抄おそろふ系新後抄おそろふ系新後抄おそろふ系新後抄おそろふ系新後抄

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

おそろふ系

丈木

おそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系ののおそろふ系のの

新木巻上

廿九

のりうりかたのこころをいかにかへるや

青柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

かざしよす 歌集 青柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

柳橋を 改 こころをいかにかへるや 改

こころをいかにかへるや 改

青柳乃 改 青柳乃さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

百歩のこころ 延文 百歩のこころをいかにかへるや 改

りしり 改 柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

とこり 夫木 柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

とこり 夫木 柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

とこり 夫木 柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

とこり 夫木 柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

とこり 夫木 柳乃煙さうらうらうのこころをいかにかへるや 改

青柳の煙 歌集 青柳の煙と流れては河乃あやむ田乃帯とともん 改

二村の柳 改 二村の柳をいかにかへるや 改

あり分ぐ 改 あり分ぐをいかにかへるや 改

玉柳 改 玉柳をいかにかへるや 改

青柳乃木立 改 青柳乃木立をいかにかへるや 改

はより 改 はよりをいかにかへるや 改

柳矣春 改 柳矣春をいかにかへるや 改

柳系縁新 改 柳系縁新をいかにかへるや 改

花と 改 花とをいかにかへるや 改

春の 改 春のをいかにかへるや 改

新木春上

六十一

柳露系
柳樹促

疎緑露乃衣之於柳之かひくあをさ乃系 後柳系後
柳乃字むつりくさくこれむらこ
日

月前柳

ことりこつりか髪乃影乱中かす青柳系 雅有
夜集
わさこち柳の枝は柳うさて月も乱くあむ玉 後柳系後
夜集
青柳乃かひくこれか雲れさそれのかか柳也 於何

青柳風靜

靜の字を眼字し
歌
善風の、とらと龍を青柳のあも露は靡くそは 通秀
千々
吹こゆい佳とそあれ青柳の靡く志は風風 師兼

柳隨風

此の吹まここひかひく
夜集
つちへ吹とも風のこも靡く柳の空かなるは 後柳
日
こ後とこあのか系よりりりてはよふくく青柳系 西行

柳乱風

後柳
青柳乃系より侍ふあそ玉とこらとこ善風そ露 鎌倉君木
夜集
かこりせれは但て青柳乃系はたうくあも乱す 道玄後

五中柳
柳芟露

柳露似玉

川波乃とよ乱く白玉や影あかひく岸乃青柳 於上柳
文相
柳似煙
千々
疎緑眉とこらと青柳ハをささのこらとそる 師兼

柳似眉

柳無氣力

凡乃吹くこまあかひいて氣力無ん
夜集
蝶鳥乃かれくあそく柳風もかこく青柳也 道玄後
日
鈴まここあらん流乃あそこもこら別流の青柳の系 日

朝柳

玉系
のされさ乃いことりはて善まひく青柳の系 後二系後
夜集
ありよりわいその人の別流を長とらに善柳の以 道玄後

夕柳

いさこ善風をれハ吹むハ侍をならん此定まて柳乃こ
歌
とりそひれをす川考し教ふを

古柳

後とらとあわ柳乃むつりくさく心の色も侍を 雅歌
下の子ハ必本後のかと云ふあは只枝うそはと

柳下嫩柳

日
よそお柳を嫩柳ハさうやうは緑そふ柳をさし
心橋とそひくこら枝うと柳乃眉もむらぬも 雅歌

遠柳

比集 乃のまをふりて一村の柳よりをの川つ後柏至後

杜柳

千集 志とて柳の糸のちをささるやまの杜柳兼

野外柳

夜集 の乃をまご下流乃後流とのれを靡くま風柳兼

行路柳

宗集 志とてとてせゆるあまを乃付来の乃風柳の

路边柳

教 志とてとて人やおらん乃の一本柳えとせ満と

夾路柳繁

夜集 夾路路のま方よりとてとてなりあふ

橋边柳

夜集 枝うと柳より下は流とて緑とてとてとて通路

壑柳茂橋

夜集 八とと流乃糸をらうとてとてとて玉柳乃後成

水边古柳

教 柳乃枝とれて橋乃くれとてとて

柳掃水

年集 的乃あいのまらりして青柳乃煙と洗じまの柳じ

壑柳條水

年集 年月もつりまらりれ柳陰あひ川の末のよ乃志

壑柳條水

年集 川とてとてとて枝とれてとてとてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

壑柳條水

年集 志田川とてれ青柳の水まふくおととてとてとて

堤边柳

辺の字は柳一境よき柳也

禁庭柳

禁庭の柳は御所の柳也

故郷柳

故郷の柳は思ひの柳也

古宅柳

古宅の柳は昔の柳也

水口柳

水口の柳は水の柳也

山家柳

山家の柳は山の柳也

田边柳

田辺の柳は田の柳也

遠村柳

遠村の柳は村の柳也

隣家柳

隣家の柳は家の柳也

翠柳誰家

翠柳は誰かの柳也

砌下系柳

砌下の柳は家の柳也

柳為寺垣

柳は寺の垣也

垣柳留客

垣の柳は客を留也

門柳

門の柳也

門柳春久

門の柳は春久也

柳窓門前

柳の窓は門の前也

柳花寫樹

柳の花は樹の影也

柳花近見

柳の花は近見也

窓柳

名所柳

即柳自生枝

黄梢新柳

出城牆

浪拂

黄柳梢

此乃名所也... 窓柳

此乃名所の号乃... 名所柳

即柳自生枝... 即柳自生枝

黄梢新柳... 黄梢と黄柳の...

出城牆... 出城牆の...

浪拂... 浪拂の...

黄柳梢... 黄柳梢の...

黄柳梢... 黄柳梢の...

